



●南伊豆手石港発↓神子元島周り〜須崎沖 フィッシングランナー 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe

オレンジ軍団でクーラー満タン マタが食うか食わぬは潮次第

3月13日、南伊豆手石港の愛丸からハタ狙いに出た。マハタは日本各地の岩礁帯に広く分布するので、決して珍しい魚ではない。しかし、資源量の減少によって希少性は高まり、関東エリアで専門乗合が出ているの

は、外房や南伊豆など一部に限られている。専門乗合とはいえ、簡単に釣れる魚ではないのは百も承知で、今回も2月13日、3月10日に続いて3回目の挑戦となる。釣り方はヒラメと同じ生き



▲マハタは2〜3キロ主体に10キロオーバーの大物も潜む
▼カンコは0.5〜2キロ級が上がった



イワシの泳がせ釣りスタイル。愛丸がハタ釣りを始めたのは20年ほど前だが、きっかけとなったのは30年ほど前にブームとなったヒラメ釣り。岩礁帯を主に攻める南伊豆のヒラメ釣りでは、ハタがよく交じるのが特徴だった。

本命のヒラメはいつしか廃れてしまっただが、ターゲットをハタに変えて今に至るといいうわけ。前2回の挑戦は石廊崎沖を攻め、残念ながら不発に終わってしまった。というところ、沈黙の時間が延々過ぎていたように思われるだろうが、実際の状況はかなり忙しい。カンコ（ウツカリカサゴ）とアヤマカサゴが入れ食いのだ。生きイワシエサだけあって、食いはいいしサイズもいい。シーズン初期の秋はこんなに釣れなかったというから、産卵期を迎えて食いが立っているのだろう。ハタより先にカサゴたちがエサに飛びついてくるような印象を受けた。というわけで、たとえ本命が不発でも、クーラーは

意外に美味しい キツネダイ

このキツネダイはオレンジ軍団の一員ながらカサゴほどは多くない。タイと名が付くものの、分類上は見てのとおりペラ科の魚。派手な体色からあまりおいしそうには見えないが、実はかなりの美味。身は白身で甘みがあり、刺身でもおいしい。火を通しても硬くならないから煮つけ、塩焼き、フライなどにしてもうまい。

▲一度食べるとクセになるはず

オレンジ色の魚でいっぱいになるのが今の状況だ。

カサゴ類は安定の食い

三度目の正直となるこの日は6時20分、7名を乗せ佐野讓太郎船長の操船で河岸払いとなる（4月以降は5時集合に変更）。空は曇天で北寄りの風がそよそよ。このエリアではベタナギとよっていい。河口から海に出た船は真つすく沖へ向かう。今日は神子元島方面を攻めるようだ。7時、神子元島北東沖で釣り開始となる。水深60メートルから85メートルへ落ち込む斜面だ。

単純にだらだらと変化するのはなく、海底はまさにガリガリ。起伏が非常に激しく、糸フケを取ってタナを取り、再びリールをフリーにすると、

着底まで10メートルくらい糸が出るほど。

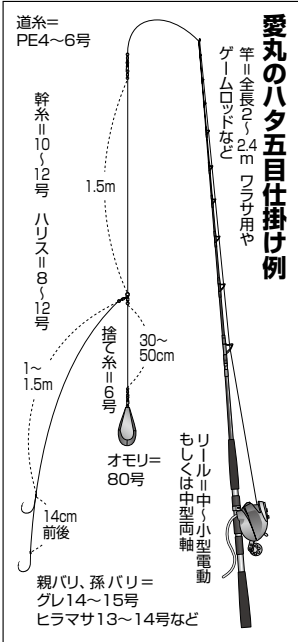
イメージとしては、新宿高層ビル群の上で釣りをしているような感じ。当然、根掛かりは付き物で、オモリや仕掛けは最低でも5組は用意すること。

底物釣りでは普通、潮が流れていることが好条件とされるが、これが起伏が激しいと、潮が速ければあつという間にポイントを通り過ぎてしまいうえ、根掛かりの危険も高まる。

したがって、まったく動かないのも困るが、潮の流れは遅いほうが条件的にはいい。

●Tackle Guide

仕掛けはヒラメ用を一回りゴツくした。ハリスは10号を標準に、大物狙いなら12号が安心。根掛かりに用意する。



潮が緩めば……

残念ながら、この日も前2回と同様、潮の動きはやや速い。オレンジ軍団（カサゴ類）の活性はいつもより控えめながら、それでもいい場所に入ると最大2キロ級のカンコと良型のアヤマカサゴがバタバタと取り込まれている。道具や仕掛けはヒラメ釣りに近いが、ハタの場合はヒラメと違ってエサを一気に飲み込むので、アタリがあつたら即合わせが基本。

その意味ではヒラメ釣りより簡単かもしれない。しかし、ハタも良型になると突進力が半端なく、素早く底から離さないと根に潜られてしまうから、ドラクは強めの設定が望ましい。当日、ガツガツのアタリに合わせを入れるも掛からず、巻き上げてみたらイワシにヒ

ラメラしき歯型が付いていたが、こればかりは仕方がない。同じハタでも、ホウキハタはガリガリの根の中、マハタは根の周辺の比較的平たんなポイントで食ってくるケースが多いという。

また、ハタは完全なベタ底ではなく、海底からやや上のレンジを遊泳しているため、ハタ以外は眼中にいないのであれば、4〜5メートルと高めのタナ取りが効果的らしい。もっとも、それだとアタリが極端に少なくなるから、タナ2〜3メートルでカサゴとの両狙い作戦が一般的。流すラインを変えながら3時間ほど粘るが、とらえたアタリはオレンジのみ。ここで心機一転、船長は移動を決断し、須崎沖へと向かう。水深はやや浅くなり、40〜60メートルほどがメイン。再開約30分後の10時45分、左側

の間のお隣さんにシャープなアタリがきた。途中でもグイグイと引き込むところを見ると、カサゴ類ではなさそう。ご本人は「サメだと思えますよ」とのことだが、やがて海面下に茶色がかつたグレーの紡錘形。マハタだ。サイズは2キロ弱と南伊豆ではやや小ぶりだが、3回の挑戦でようやく顔を見られたのだから、釣った人以上にホッとした。やはり、朝のポイントよりも岸寄りだった分、潮の動きが鈍く、じっくり狙うことができたのがよかったのかもしれない。

さあこれからと船内に気合が入るが、本命のアタリはこの1尾のみで、あとは相変わらずオレンジ軍団に終始。終了間際、私に2キロ弱のヒラメが食ったものの、13時過ぎに沖揚がりとなった。

▼本命にふられてもお土産はどっさり



▼アヤマカサゴは入れ食い



●船宿information

南伊豆手石港
愛丸
☎0558-62-1307
(詳細は巻末の情報欄参照)



佐野 讓太郎船長

▶料金=ハタ五目乗合1人1万5000円 (エサ、氷付き)
▶備考=予約乗合、5時集合。キンメ乗合へも出船。貸し道具無料(深場用は除く)